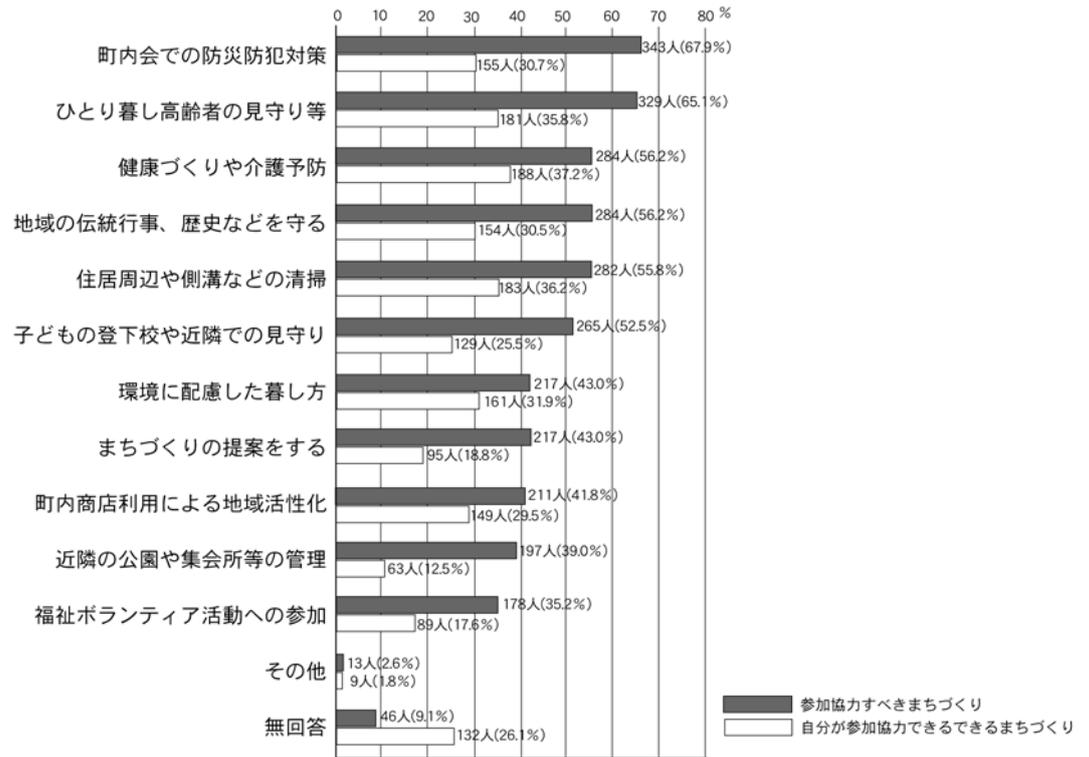


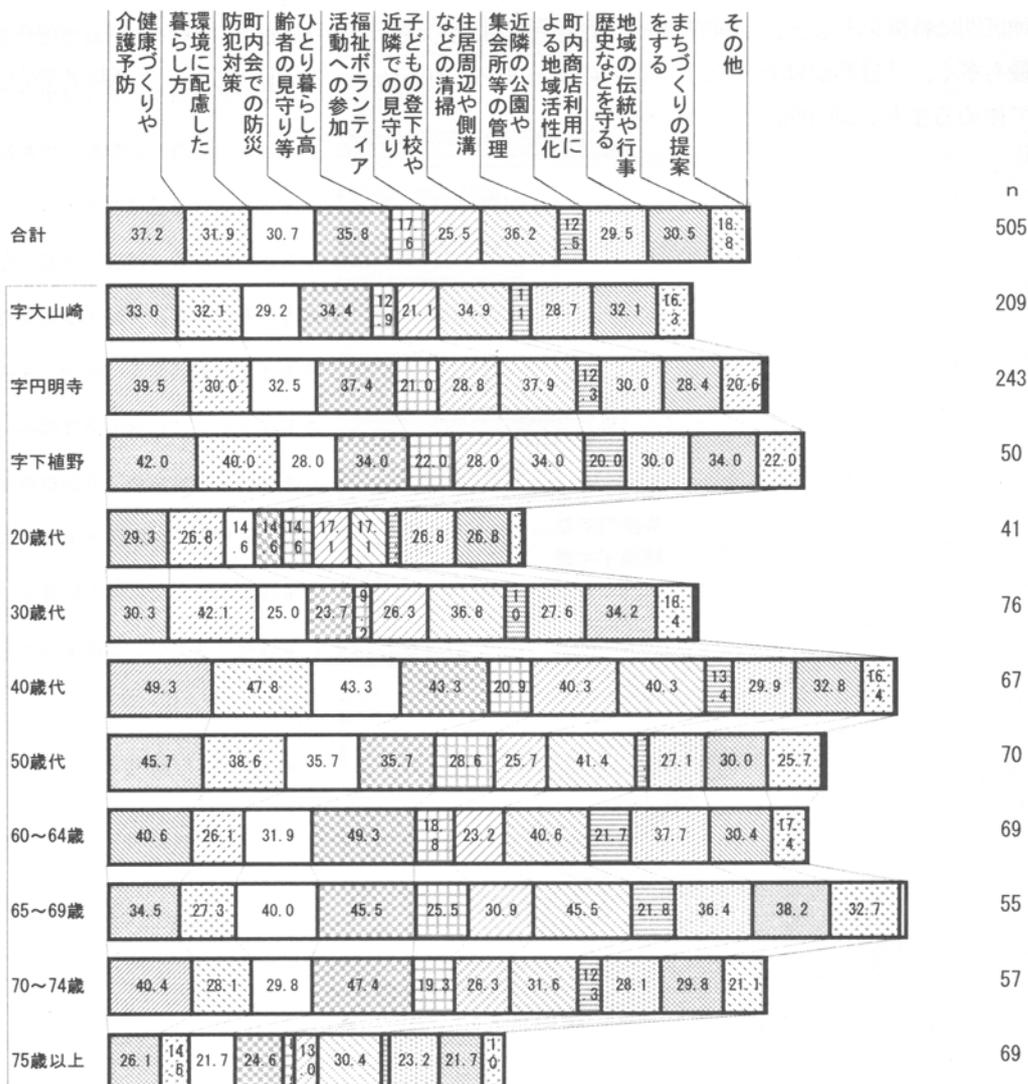
2) 参加・協力できること (問24-2 MA/ すべて)

- ・まちづくり活動に「参加・協力できることはない」とみなせる人（何も回答しなかった人）は、26.1%となっている。
- ・まちづくり活動に「参加・協力できることがある」とする人は、73.9%だとみなすことができる。
- ・回答者373人の累計回答数は1556で、1人4.2項目に回答している。
- ・参加・協力できるとされる活動は、回答率（無回答を含んだ回答率）が高い順に「健康づくりや介護予防にとりくみ、元気に暮らすこと」37.2%、「町内会・自治会などで住居周辺や側溝などの清掃をすること」36.2%、「近隣のひとり暮らし高齢者を見守り、声かけなどすること」35.8%、「環境に配慮した暮らし方（ライフスタイル）に変えること」31.9%、「町内会・自治会で協力して防災・防犯対策を検討すること」30.7%、「地域の伝統や行事、歴史などを大切にすること」30.5%、「もっと町内の商店を利用し、地域の活性化に協力すること」29.5%、「子どもたちの登下校や近隣での活動の見守りをする事」25.5%、「地域の課題を検討し、まちづくりの提案をすること」18.8%、「もっと福祉ボランティア活動に参加すること」17.6%、「近隣の公園や集会所などの管理をすること」12.5%となっている。
- ・年齢別では、65～69歳が多く項目で町平均より高い回答率となっていることが注目される。「近隣のひとり暮らし高齢者を見守り、声かけなどすること」45.5%、「町内会・自治会などで住居周辺や側溝などの清掃をすること」45.5%、「町内会・自治会で協力して防災・防犯対策を検討すること」40.0%、「地域の伝統や行事、歴史などを大切にすること」38.2%、「もっと町内の商店を利用し、地域の活性化に協力すること」36.4%、「子どもたちの登下校や近隣での活動の見守りをする事」30.9%、「もっと福祉ボランティア活動に参加すること」25.5%、「近隣の公園や集会所などの管理をすること」21.8%となっている。
- 60～64歳では、「近隣のひとり暮らし高齢者を見守り、声かけなどすること」49.3%、「近隣の公園や集会所などの管理をすること」21.7%が、町平均より高い回答率となっている。
- 40歳代では、「環境に配慮した暮らし方（ライフスタイル）に変えること」47.8%、「町内会・自治会で協力して防災・防犯対策を検討すること」43.3%、「子どもたちの登下校や近隣での活動の見守りをする事」40.3%などが、町平均より高い回答率となっている。
- ・エリア別で、Dエリアでは、「町内会・自治会などで住居周辺や側溝などの清掃をすること」が57.1%、「地域の伝統や行事、歴史などを大切にすること」が47.6%、「環境に配慮した暮らし方（ライフスタイル）に変えること」が40.5%など、町平均より高い回答率となっている。

図表5-10 参加・協力できるまちづくり活動



(地区別、年齢別集計)

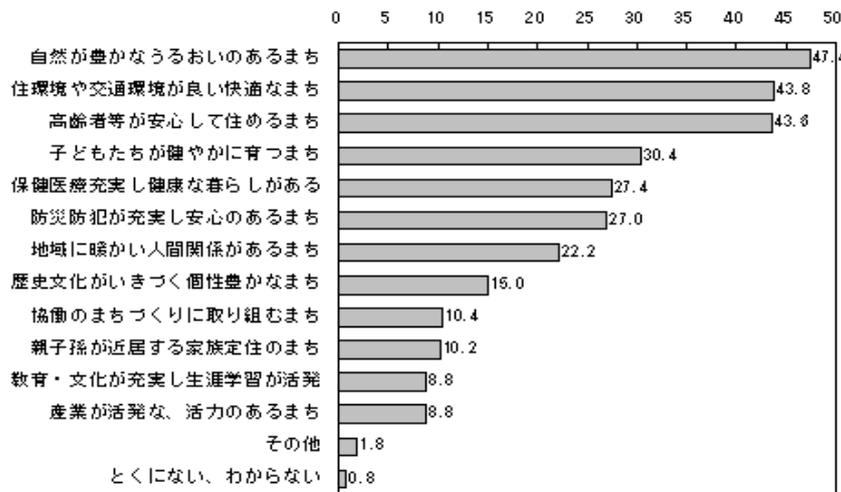


〔6〕町の各分野についての住民の意向

(1) 町の望ましい将来像（問25-MA/3つまで○）

- ・将来、大山崎町がどんなまちになってほしいかについては、回答が多い順に、「自然がゆたかなうるおいのあるまち」47.4%、「住環境や交通環境が良好な、快適なまち」43.8%、「福祉の充実した高齢者等が安心して住めるまち」43.6%、「未来を担う子どもたちがすこやかに育つまち」30.4%、「保健・医療の充実した健康な暮らしのあるまち」27.4%、「防災や防犯等の充実した安心して住めるまち」27.0%、「近所や地域での暖かい人間関係のあるまち」22.2%。さらに、「歴史文化がいきづく個性ゆたかなまち」15.0%、「町民と行政が協働でまちづくりに取り組むまち」10.4%、「親子孫が近くに住む、家族が定住するまち」10.2%、「教育文化が充実し、生涯学習の活発なまち」8.8%、「産業が活発な、活力のあるまち」8.8%となっている。
- ・平成16年度調査においては選択肢が若干異なるため回答率の比較はできないが、変化を読み取ることにはできる。最も多かったのは「自然がゆたかなうるおいのあるまち」が57.9%で、次いで「福祉の充実したまち」が40.0%、「保健医療サービスの充実したまち」が35.6%、「買物等生活必要施設が整ったまち」が25.2%、「交通環境の整備された便利なまち」が20.8%だったが、今年度は「住環境や交通環境が良好な、快適なまち」が第2位（43.8%）になっている。
- ・地区別に特徴をみると、下植野地区では、「住環境や交通環境が良好な、快適なまち」が56.0%と最も多く、「自然がゆたかなうるおいのあるまち」40.0%、「福祉の充実した高齢者等が安心して住めるまち」38.0%となっている。

図表6-1 町の望ましい姿



(地区別集計)

